小児慢性疾患の心理指導に関する研究

分担研究者　筑波大学心身障害学系　長畑正道
研究協力者　静岡大学教育学部　新井清三郎
国立特殊教育総合研究所　永峯博
慶応大学小児科　秋山泰子

小児慢性疾患の心理指導をすすめて行くにあたり，慢性疾患児自身の心理適応の実態と，こういった慢性疾患児を現在どのように取り扱っているかを把握し，あるべき心理指導の姿を求めて行く必要がある。今年度はどのような方法で実態把握をすすめるかについて研究した。

1. 慢性疾患児の心理適応の実態を把握する調査方法の検討

方法としては質問紙法によるのが適当であると考えられた。質問項目は Rutter および Graham (1970) の Child Scale A（表1）を用い，3才児以上を対象とする。

対象施設としては大学病院小児科，虚弱児施設，学校併設の慢性疾患病棟（主として国立療養所）とする。

質問紙の記入は患児を直接ケアしている看護婦，保母，児童指導員などとし，外来患児では母親に記入してもらう。この際，手引書を用意し，基準を統一する。

2. 心理指導の現状についての調査方法

（1） 受持医の意識調査
　　質問項目はまだ十分固まっていないが，表2のような試案を作成した。
（2） 病棟での心理指導の実態の調査
　　日課，行事などを具体的に調査する。
（3） 病院や施設で心理指導にあたる職員の種類や人数およびスペース等を調査する。

3. 結　語

今年度は慢性疾患児の心理適応の状況および心理指導の実態についての調査方法の検討を行い，一応の成案を得た。なお本研究の題目として「小児慢性疾患の精神衛生に関する研究」とした方がより身近かで，小児科医にとっても自分たちの問題として受けとめてもらえるのではないかと考えられる。

参考文献

1) 長畑正道他：小児の心身障害ならびに慢性疾患に対する医療供給体制の現状—大学病院（総合病院）小児科，施設，小児病院等へのアンケート調査から—，小児保健研究，**38**：506—517，1980.
2) Rutter, M., Graham, P., and Yule, W.: A neuro-psychiafric study in childhood. Cliaics in Developmental Medicine Nos. 35/36 William Heinemann Medical Books Ltd., London, 1970.
3) Pless, I. B., and Pinkerton, P.: Chronic Childhood Disorder-Promoting patterns of adjustment. Henry Kimpton Publ., London, 1975.

表 1　心理適応をみる異常行動評価尺度（Rutter & Graham）

（1）健康上の問題

項　　目	この1年ない	年に数回	1月に1回以上	1週に数回
1. 頭痛がある				
2. 腹痛や嘔吐がある				
3. 食欲がない				
4. 夜尿あるいは昼間のおもらしがある				
5. 大便をもらす				
6. かんしゃく発作をおこす				
7. 登校のとき泣き出したり校舎に入るのを嫌がる				
8. 怠けて学校へ行かない				
得　　点	X0	X1	X2	X3

合計＿＿＿＿

（2）く　せ

項　　目	いいえ	ときどき	よくある
1. 話すときに吃る			
2. 舌がよくまわらず，正しく発音できない （例えば　　）			
3. 物を盗んだことがある （例えば　　）			
4. 少食や過食など食事をめぐる問題がある （例えば　　）			
5. ねつきが悪かったり夜中に目のさめることがある			
得　　点	X0	X1	X2

合計＿＿＿＿

（3）行動上の問題

項　　目	いいえ	ときどき	よくある
1. 多動で片時もじっとせずよく動きまわる			
2. そわそわと落ちつきがない			
3. 物をよくこわす			
4. 他の子供とよくケンカする			
5. 他の子供に嫌われる			
6. 心配性である			
7. 孤立的で自分ひとりで物事をする傾向がある			
8. いらいらとし，すぐカッとなる			
9. 気分が沈みがちで，よく涙ぐんだりする			
10. 顔や身体の一部をピクッと動かすくせ(チック)がある			
11. 指しゃぶりがある			
12. 爪を噛むクセがある			
13. 親のいうことをきかない			
14. 注意が持続しない			
15. こわがりで，見なれないものを怖れる			
16. よく文句をいい気むずかしい			
17. よく嘘をいう			
18. 他の子供をいじめる			
得　　点	X0	X1	X2

合計＿＿＿＿

総計＿＿＿＿

表 2 小児科医に対する質問紙

1) 小児科医としての経験年数は（　）年ですか。
2) 慢性疾患児の病歴聴取にあたり，子どもの日常生活の状態や親子関係についても必ずききますか
（はい，いいえ）
3) 入院している慢性疾患児に対して診察だけでなく，病室やプレールームなどで日常よく話し合ったり，遊んでやったりしますか。（はい，いいえ）
4) 親や子どもとの面接技法の理論や実地について指導をうけたことがありますか。（はい，いいえ）
5) 受持っている慢性疾患児の問題行動で困ったとき，身近かに相談できる専門家がいますか。
いいえ
はい
それは医師（専門：　　）ですか，他の職種（職種名：　　）ですか。
6) これまで慢性疾患児でなくとも，子どもに発達テストや知能テストを自分で行ったことがありますか。
7) 慢性疾患児の精神衛生についての御意見をお書き下さい。

検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

小児慢性疾患の心理指導をすすめて行くにあたり,慢性疾患児自身の心理適応の実態と,こういった慢性疾患児を現在どのように取り扱っているかを把握し,あるべき心理指導の姿を求めて行く必要がある。今年度はどのような方法で実態把握をすすめるかについて研究した。